

アジア・ソサエティ、ジャパンセンター本格始動 開設を記念して、アジア太平洋の未来に向けた対話を実施

2018年10月22日、東京 – アジア・ソサエティは、10月30日に本格的に活動を開始します。グローバル社会の発展に向けた国と地域の明白な重要性の認識のために、東京に日本初の拠点となるジャパンセンターを国際文化会館との協力により始動します。

オープニングを記念し、アジア太平洋地域の未来創出のために、次世代を担うリーダーたちはどのように迎えるべきか、というタイムリーなテーマについてパネルディスカッションを行います。各界で活躍のキャロライン・ケネディ氏（アジア・ソサエティ評議員、前駐日米国大使）、ベルニセ・アン氏（Zeroth Labs 主宰）、アーネル・カサノバ氏（AECOM テクノロジー株式会社フィリピン代表）、土井香苗氏（ヒューマン・ライツ・ウォッチ日本代表）、ユージン・イ氏（Cortico 代表）、小泉進次郎氏（衆議院議員）の各氏に加え、アジア・ソサエティ理事長ジョゼット・シーランも登壇いたします。

アジア・ソサエティ・ジャパンセンターの日高佐和子事務局長は次のように述べています。

「21世紀に入り、世界では気候変動からサイバーセキュリティまで、今までなかった新たな課題が出てきました。次世代のリーダーは、こうした課題に対応できなければなりません。アジア・ソサエティの新しい1ページを始めるにあたり、このような有意義な議論からスタートできることは、素晴らしいことだと思います。」

世界第3位の経済大国である日本は今、米国を除く11カ国によるTPPの交渉をまとめ上げ、世界の安全保障や国際貿易の促進においてさらに大きな役割を果たそうとしています。そうした重要な節目に、開設の運びとなりました。

アジア・ソサエティ理事長のジョゼット・シーランは次のように述べています。

「日本は、アジアの、そして世界の平和と繁栄に関わるあらゆる問題の中心となる存在です。ジョン・D・ロックフェラー三世は、東洋と西洋、またアジアの国々同士をつなぐ架け橋となるべく、アジア・ソサエティを設立しました。日本がこのネットワークの一翼を担うのは大切なことです。」

ジャパンセンターは今後、東京の六本木にある日本近代建築を代表する国際文化会館を拠点に、米国やアジアの政策立案者を招き、芸術・文化、政策やビジネス、そして時事問題に関するプログラムを実施する予定です。

当センターの設立にあたっては、近藤 正晃ジェームス氏とティエリー・ポルテ氏が中心となりました。近藤氏はベンチャーキャピタル、ジオデシック・キャピタルのシニアアドバイザーで、アジア・ソサエティ—のアジア 21 ヤング・リーダーズ・ネットワークのメンバーとしても活動。ポルテ氏はプライベートエクイティ、J.C.フラワーズのマネージングディレクターで、アジア・ソサエティのグローバル・カウンシルのメンバーでもありません。

お問い合わせ

アジア・ソサエティ・ジャパンセンター

事務局長 日高 佐和子

shidaka@asiasociety.org

asiasociety.org/japan

国際文化会館について

国際文化会館は、日本と世界の人々との文化交流や知的協力の増進をはかることを目的に、1952年にロックフェラー財団をはじめとする民間企業組織や個人からの支援により設立された非営利の民間団体です。

アジア・ソサエティについて

アジア・ソサエティは、アジアや世界の国々が直面する幅広い課題に取り組むことを目指し、1956年にジョン・D・ロックフェラー三世によって設立された無党派の非営利組織です。ニューヨーク、香港、ヒューストンに文化施設や公開施設があり、ロサンゼルス、マニラ、ムンバイ、東京、サンフランシスコ、ソウル、上海、シドニー、ワシントン D.C.、チューリッヒにオフィスを構えています。芸術、ビジネス、文化、教育、政策などのさまざまな分野で、知見を提供し、新しいアイデアを生み出し、アジアと世界の国々との協力を促進しています。